

2010年12月6日 23時58分
NHKでの報道内容をご紹介します

漢方や「はり・きゅう」などの伝統医学について、WHO=世界保健機関が、どのような治療を行っているか国際的な基準となる情報データベースを初めて作ることになり、日本国内の実態を調査することになりました。

これは6日、WHOが東京都内で会見して明らかにしたものです。それによりますと、WHOは、漢方などの伝統医学でどのような診断や治療が行われているか、国際的な基準となる情報データベースを初めて作るということです。具体的には、日本と中国、それに韓国で、どのような種類の漢方や「はり・きゅう」などがどんな症状の患者に使われているか分類し、4年後をめどに情報データベースを完成させたいとしています。漢方などの伝統医学は長年、特定の地域で行われてきたため、国際的に統一された用語や分類方法もなく、基準となる情報データベースを作ることで、今後は伝統医学の有効性や安全性についても正確な調査ができるようになるということです。伝統医学をめぐるっては、日本の厚生労働省、西洋医学と組み合わせた医療として、ことし2月にプロジェクトチームを立ち上げ、利用実態などの調査を進めていて、WHOの取り組みにも協力することにしています。